

## 歯学部卒業おめでとう



## 歯学部卒業おめでとう

歯学部長 山田好秋

ご卒業おめでとう。

新潟大学歯学部の学生生活はいかがだったでしょうか？ 入学時には長いと感じた6年間も過ぎ去ってみれば短いと感じる人もいるでしょう。おそらく「楽しかった」「有意義だった」と答える人と、逆に「早く卒業して新潟を離れたい」と答える人、そして特に感想なしと答える人など様々かと思えます。私の同級生にも「二度と新潟を訪れることはないだろう」と感想を述べて卒業した人もいます。でも、そんな人達でも歯科医として生活していくうちに、何となく新潟が気になるようになってくるようです。

「他人の芝生は青く見える」といいますが、他大学が良く見えることが往々にしてあります。しかし、新潟大学歯学部長としてあなた方卒業生に自信を持って主張します。新潟大学歯学部は全国の歯学部の中でもよりよい歯科医師を育成するために基礎・臨床が一体となってカリキュラムを考え、実践しています。摂食・嚥下障害に対する対応も、学部学生のうちから経験していますから、臨床の場に出た際、自信を持って治療に当たれるはずです。ただし、医療というものは教科書通りには進みません。あなた方自身でこれまでの知識を使って、さらに臨床経験を積んで行くことが求められています。

そんな過程の中でいずれは歯科医師として行き詰まりを感じることもあるかと思えます。大学院生または研修医として在籍した後、大学の近くで就職する場合には関連の大学に助けを求めることはできます。しかし、これから新潟を遠く離れた地ですぐに臨床の場に就く予定の人は今後歯科医

として行き詰まった際に相談する場が無いかもしれません。そんなときには母校である新潟大学を十分活用し、必要な情報や技術を補充して下さい。同窓会を通して、または大学院という卒業教育を通して、我々はあなた方の生涯学習をサポートして行きます。

さて、歯科医師として世に出て行くあなた方へお願いがあります。それは歯科医という職能集団の中でのあなた方一人一人の責任です。歯科医という職種は長い年月を掛け、社会の中で先輩達が培ってきた信用をもとに成り立つ職業です。明治以前には入れ歯師や歯を抜く大道芸人のような人達がいわゆる歯科医業を営んでおり、社会的な地位は確立されていなかったと聞いています。しかし、現在では6年制の大学を卒業することが求められる専門職として認知されてきています。患者さんにとってあなた方は必要な知識と常に新しい治療法を提供してくれる専門家です。この信頼関係を失うことの無いよう、細心の注意をはらい知識・技術の更新に努めて下さい。新潟大学歯学部の卒業生にはその資質は十分教育されていると信じています。

最後のお願いは、歯学部に対する皆さんの意見を学部長のアドレスに送っていただきたいということです。dean@dent.niigata-u.ac.jpは学部長のアドレスとして作りました。今後、学部長が変わってもこのアドレスは次の学部長に引き継がれます。新潟大学歯学部をよりよい学部として育てることは、歯科医の社会的地位を維持し、ひいてはあなた方歯科医の評判を高めることにつながると考えております。よろしく申し上げます。



## 卒業おめでとう

新潟大学医歯学総合病院副院長 宮崎 秀夫

34期生の皆さん卒業おめでとうございます。6年間の大学生活いかがでしたか？一概に比べられるものではありませんが、同じ6年間の課程である小学校時代に対して、感覚的には半分くらいの時間経過ではありませんでしたか？脳を活発に使うほど時間認識は短くなるともいわれており、皆さんは中身の濃い学習にいかにか時間を費やしたかが推し量られるというものです。

6年間の課程を終え、無事、国家試験を合格して世に巣立っていくことだと思います。ある人はさらなる専門性を磨くべく大学院などでの新しい、ステップアップの研鑽を選ばれた。また、ある人は臨床研修の2年コースを選び、着実なる基礎固めを凶ろうとなさっています。地域開業医のプロの下で、実践の道を選んだ人もいるでしょう。選ぶ道はそれぞれ違って、歯科医学・医療を通して社会に貢献してゆかなければならないことに違いはありません。アプローチの仕方は違っていても達成目標は明らかであります。ですから、卒業を祝すというよりも「ようこそ歯科医学・医療」へと言いたい心境です。これから、同じ目的を持つ仲間が増えることに対して心から喜びを感じています。

今、自分の卒業当時のこと思い出しています。もうあれから26年経ちました。卒業と同時に大学院へ進学しましたが、いわゆる親の保護下にある「学生」から「歯科医師」として社会へ踏み出し、希望に満ちあふれ、充実した日々を送っていました。講義・実習、診療への参加は当然として、研究の合間を見て、教育機関での歯科保健指導や講演会の講師、過疎地病院での歯科診療従事、複数回の海外調査参加など、どの仕事をとっても、と

ても面白くて、寝る時間をもったいないと強く感じた時期でした。

勉強が嫌いだった君、面白いもの、やりがいのあるものに行き当たると勉強がとても好きになります。勉強が好きだった君、生涯を通じて楽しんでやれる（基礎でも臨床でも）専門性を早く見つけて下さい。どちらにせよ、ここ数年が勝負だと言えます。

講義や実習の際に繰り返し話してきたことですが、これまでに学習してきたことはすべて過去のことではありません。特に、エビデンスを集約している教科書が典型ですが、5年からどうかすると20年前で時間が止まっています。これからの歯科医学・医療を築いていくのは皆さんです。情報アンテナを張り巡らせ、できるだけ広い視野と豊富な情報を基に深く思考し、地域社会や自身の研究に生かして下さい。「Think Globally, Act Locally」です。これからの超高齢化社会が君たちに求めるものは何でしょうか？この命題を追い求める人は、いくつになっても歯科医学や医療の潮流からドロップアウトしてしまうことはないでしょう。積極的に地域・社会へ出て行き、地域や人々に横たわる問題を分析することと歯科保健・医療に関する地域診断を行うことは非常に有効な手段となるでしょう。「Primary Health Care Approach」の実践がとっかかりを与えてくれるかもしれません。

最後になりましたが、皆さんはそれぞれの達成目標（Goal）へ向かって邁進され、人類社会へ多大な貢献をしてくれるであろうことをご期待いたします。

## 卒業にあたって

歯学部6年生 根岸綾子



新潟での生活も残すところあと3ヶ月となり、6年間という長い学生生活を間もなく終えようとしています。ただ漠然と歯科医師になりたいと思って入学しましたが、今では、将来どの

ような歯科医師になりたいか、何をしたいのかが自分の中で大きく決まり、卒業してからの進路もそのような希望のもと決まりました。私は、6年間を通してお世辞にも真面目とは言えない生活を送ってきましたが、そんな私でも将来の目標が立ったのは、とても嬉しく、実に愉快的出来事です。

友人達で集まって将来の話がでると、お互い6年間を一緒に過ごしてきた同士であり、ライバルであるので、刺激的です。馬鹿な話もするし、真面目な話もするし、そういうときに感じるのは、個性って大事なものだということです。個性の強い人、豊かな人からは学ぶことが非常に多いです。だから、性格が悪くても、変人でも、変態でも、個性の豊かな人とは話していてとても刺激を受けます。何事もうまくやろうとして、小さくまとまってるような人はつまらないので。幸いなことに、私は友人、先生、先輩、後輩に恵まれ、そこから得たものは学生時代一番の財産です。そういう人たちがいたからこそ将来の目標が見えたと、自分に負けないよう努力をしようと思うわけです。

私は、優等生ではないので、優等生的な発言はしません。だから、このページで好きな言葉とか、先生への感謝の言葉は言いません。そういうことは優等生が言えればいいのです。卒業にあたり思うことは、学生の間に自分の基礎はできたので、もっと努力をして個性を育て、わが道を行くような人生でありたいということです。

ま、こんなことを言っておきながら、今後どうなっていくのが楽しみです。

## 卒業にあたって

歯学部6年生 駒形雄気



新潟大学に入学して早6年。学生の終わりという1つの節目を迎えようとしている。6年前の出来事といえば、どのようなことがあっただろうか。社会的なことでは和歌山毒入りカレー

事件に始まった全国の毒入り食物・飲み物事件などがあり、経済では史上最悪の失業率を記録し続け、企業は倒産、合併と減益を繰り返す、先行きの見えない平成大不況の真っ只中であつた。主だった明るい出来事がほとんど見出せないような年だつた。しかし、そのような出来事のことを振り返っても、つい最近のことのようにしか思えてならないのだから、6年という時の流れの速さを改めて実感してしまう。

あれから6年が経ち、社会はもちろんのこと、歯学部も大きな変化があつた。研修医の義務化に伴い教育カリキュラムが変わり、また、OSCEやCBTなどの新たな試験も実験段階ではあるが導入されるようになった。付属病院も医学部と合併し医歯学総合病院となつた。このように歯学部内の変化は枚挙に遑がない。

では、自分自身はどうであろうか。歯科に対して全くの無知で入学したわけだが、2~4年時までの座学及び基礎実習、5年時のポリクリ、そして6年時の臨床実習を経験したことで、未熟ではあるが歯科に対する心構えを身に付けることができた。特に、臨床実習での経験が非常に大きかつた。

臨床実習は当然、予習をして診療に臨むわけだが、いざ患者さんを目の前にした途端、状況が把握できなくなることがあつた。また、診療が滞ってしまい、患者さんにも指導を請う先生にも迷惑をかけてしまうこともあつた。その都度、予習の不備や自分の至らなさを反省し、同じ轍を踏まないよう努力した。それでも再び、うまくいかないこともあつた。文体やマネキンから得られるよう

な基礎的なことはもちろん大切だが、対人で行う臨床実習にはそれ以上の奥深さがあり、医療というものを身をもって経験することができ、そこから医療人としての心得や人間関係の重要性を改めて学ぶことができた。

6年間という短い間でも、様々な変化があり、自分自身も入学当時の利己主義的な考えがなくな

った。これからは、今までよりも更に長い人生が待ち受けている。想像もつかないような変化が、きっと身の回りに起こるのであろう。卒業後は、この6年間での貴重な経験を活かし、また、色々な方々の考えを謙虚に学び、時代の変化に素早く対応できるような人間でありたいと思う。

